

「二連の事実の流れを理解するため、時系列に沿って並べ替えた。ページ番号はそのままで」

P 9

乍恐以書付奉願上候

一御料分新古領住田村・茅ヶ崎村・池邊村

東方村・師岡村・久河原村・徳持村・下野川村

上野川村右九ヶ村名主年寄百姓代一同

奉願上候儀者、当春中右照統大早魃仕候ニ付

村役人日々差添小前一同昼夜之無差別

根限り出精仕候得共、一躰右村々之儀者

用水井筋等無御座、雨水出水を以年々植付

養水等致し来り候処、当年之儀者誠ニ稀成

早魃ニ付植付出来兼候所、窪田之分者漸々

P 10

植付仕候得共、留水無之故ニ皆干枯ニ相成

田場荒地亡所ニ罷成、百姓一同心痛仕罷在候

当年之儀も最早御収納ニも趣候得者

誠ニ田場之儀者皆無罷成、一躰引統^キ

困窮之百姓ニ御座候得者、御年貢御上納方ニ

当惑仕候、何卒今般格別之以御慈悲荒

田亡所之村々御見分被成下、御憐愍之

御勘弁偏ニ奉願上候、右願之趣御聞濟

被下置候ハ、村々一同難有仕合ニ奉存候

以上

文政四^巳年九月二日

増上寺様
御代官所

同	久河原村	同	師岡村	同	東方村	同	池邊村	同	名主	同	茅ヶ崎村	同	名主	同	年寄	同	百姓代	同	百姓代
長右衛門	市郎右衛門	又兵衛	久米次郎	清吉	久兵衛	七左衛門	平右衛門	半兵衛	百姓代	百姓代	年寄	年寄	七左衛門	年寄	半兵衛	百姓代	百姓代	百姓代	

乍恐以書付奉願上候
 一御靈屋料并御領分左之村々役人共一同
 奉申上候、当年之儀者稀成早損二候所、御領
 久河原村外八ヶ村共田方早損仕候ニ付当五月
 中右御代官様江御訴奉申上、御見分願上御見分
 奉請候処、御代官様御理解之上五ヶ年賦延納ニ
 被仰付候所、先月中二至御代官様右被仰渡候趣ヲ以
 今井村名主源藏・新作村同善四郎右当御年貢
 米皆上納請書差上候様申之候連右御請差上
 乍置、此節ニ至右村々有米上納仕殘米差滞
 候のみならず、是迄取計如何ニ被為思召、久河原村
 外八ヶ村役人共并今井村源藏新作村善四郎
 被召出御吟味中、右九ヶ村役人共宿御預ケ
 源藏・善四郎者手鎖宿御預ケ被仰付候段奉承知

驚入奉恐入候御儀ニ御座候、然処右之者共父母
妻子者勿論親類共迄右躰奉蒙御咎

候ニ付而者、何様可被仰付哉難計段一同相歎
於私共ニ難□上依之御歎奉申上候所、大切之
御年貢米之儀ニ付、皆上納可仕旨被仰渡承知
奉畏候得共、当年之儀者大旱魃故村々一同

(必之)
心 至与難洪仕、上納可仕手段無御座歎敷奉存候間
不願恐ヲも、新領七ヶ村名主共一同罷出、御慈悲
奉願上候者、久河原村外八ヶ村納米千四百四拾四俵

文政四□年十二月晦日

		御料分	
		武州橋樹郡	
		願人	
		塚越村	
		名主	
		弥兵衛	
同		鹿嶋田村	
同		同	
同		弥与八	
同		下平間村	
同		同	
同		北加瀬村	
同		同	
同		善右衛門	
同		箕輪村	
同		同	
同		武右衛門	
同		下小田中村	
同		同	
同		新太郎	
同		上小田中村	
同		同	
		勘右衛門	

之内四百四拾四俵者当七ヶ村江引請此節上納
仕、殘納米千俵者久河原村外八ヶ村御赦被成
下置候様御聞濟之程奉願上候、以上

同州荏原郡 久河原村

名主

長右衛門

德持村

同

久兵衛

同州都筑郡

荏田村

同

久兵衛

茅ヶ崎村

同

清吉

東方村

同

又兵衛

池邊村

同

久米次郎

同州橘樹郡

師岡村

同

平吉

下野川村

同

源右衛門

上野川村

同

菊五郎

増上寺様
御役所

乍恐以書付御届ヶ奉申上候

一御領分荏田村名主久兵衛奉申上候

去ル巳年御年貢未進之儀、当正月

十二日右同廿七日迄之間上納之術奉

願上候得共、願書御下ヶ被遊誠二当惑

仕候、然処如何可致哉、小前百姓共衣類

諸道具等質物二為入置、少々之取立も

可致与帰村仕、村方之様子承□候得者

名主平右衛門・年寄七左衛門・百姓代善蔵

右三人之者共、寺社 御奉行所様江差越

御訴訟仕候段承知驚入、早速此段

御届ヶ奉申上候、且又自今御用之趣

右之者共江被為 仰付被下置候様

偏ニ奉願上候、以上

文政五年^午正月廿九日

覚

一金百貳拾六兩

武州都筑郡

一金四拾七兩

往田村

一金五拾五兩

同州同郡

池邊村

合金貳百貳拾八兩也

同州荏原郡

久ヶ原村

右者去ル巳年旱損ニ付村々願之上、当役所ニおいて
取扱一紙証文を以拝借被仰付砌金子、去辰十一月迄
追々皆返納相成候ニ付証文可差戻之処、右証文者
方丈御役所江差出□、先達而出火之砌焼失いたし

今般御同所合其趣御書付を以御達有之候間、為後
証断書付相渡置クもの也

御靈屋料

地方

印

天保四巳年二月

役所

印

右村々

名主

年寄